

まだまだやれるAタイプ

ジャグラーだけでは生き残れない！

「ジャグラー」に代表されるAタイプ。撤去とはほぼ無関係の部門だけに、その育成は、未来への投資と言える。一昨年の型式試験の変更以降、ホールはジャグラー比率を上げてきたが、今後、旧基準機の撤去が進んできたとき、ジャグラーだけで、すべての穴を埋めるわけにもいかないだろう。本稿では、ジャグラーはもとより、他のAタイプにも目を向け、その活用と可能性を探ってみたい。

潜在客数は30%以下 ジャグラーは非効率部門!?

エスサポートの三木貴鎬社長は、「ジャグラーの潜在客数は、実際は30%以下だと感じています。脱等価や遊技機の低射幸化により、商圏範囲が狭くなる中、ジャグラーが飽和し、ホールが遊技人口の30%を取り合っている状況ではないでしょうか」とする。

グローバルアミューズメントの青山真将樹社長も、「ジャグラーは勝率が高いからこそ稼働しているのです。大量設置しておけば、全1でもお客さまが付くというわけではありません。設定3が、利益確保ができるラインとなりますが、平日に設定3中心で使える程度の比率に抑えておかないと、非効率部門が増えるばかりです」と指摘した。

ただ、現実問題としては、ジャグ

ラーに頼らざるを得ない事情もある。アテインの糸柳達成社長は「代替がないのです。特に、下位店舗が潰れないための営業をしようと思えば、ハズレが多い新台を買わずに、ジャグラーに少しでも高設定を入れていくほうが、まだ道は開けます」と話した。

こうしたことを踏まえた上で、ジャグラーとどう向き合うのかを考えた。

ジャグとゴッドは相性最悪？ 設置場所には細心の注意を

まず、ジャグラーには「ニューア イムジャグラーEX」などの「アイム系」と、「マイジャグラーⅢ」「みんなのジャグラー」「ジャグラーガールズ」といった「亜種」がある。船井総研の渡邊龍信経営コンサルタントは、「アイム系の育成は非常

に難しい。出玉率が低く、機械が古すぎるため、そもそも店側の仕掛けに反応するような客層が遊技していないのです。お盆など、季節指数的にお客さまが増える時期に放出する。我慢しながら、それを継続するということになります」と語る。

ちなみに、アイム系の設定については、「2ベースは意味がありません。設定1と2のREG比率がさほど変わらないため、体感で1か2か分からないのです。なので、平日は1ベースにして、その分、週末にしっかり還元するほうが、お客さまも喜んでくれます」とした。

一方、「亜種」については、まだやりようがある。特に「マイジャグⅢ」などは出玉率が高く、若者層もプレーする。ゆえに、「バジリスク絆」などに高設定を投入した日は、「マイジャグⅢ」にも設定が入っているのでは？」ということ、遊技してく



ホールで圧倒的な存在感を放つ「ジャグラー」

れることが少なくない。利益確保にも使えるし、実際に高設定を使って、常連化を図ってもいいだろう。

ただ、注意したいのが、そうした「ガッツ系」の若者層と、アームを好んで遊技する中高年層が、相容れない関係にあるということ。若者層がジャグラーコーナーを闊歩すること、アーム系の顧客が離れてしまったら一大事だ。「アーム系と『マイジャグⅢ』を分けて配置するなど

の配慮が必要でしょう」と渡邊氏。さらに、『「みんなジャグ」の演出音や、『ガールズ』の「ガッコ」という告知音をうるさく感じるアーム系のお客さまもいます。また、『ハーデス』『凱旋』『バジリスク絆』などの裏にジャグラーを置くことも避けるべき。ユニバーサル機特有のウーファー音が、年配のジャグラーファンを不快にさせるのです」とも。育成が難しいだけに、困り込んだ顧客を逃さぬよう、細心の注意を払う必要があるのだ。

沖ドキ…ユニロピカルは「4」も「3」もKASHING

では次に、ジャグラー以外の機種にも目を向けよう。

まず、定番の「沖ドキ」。同機は正確に言うと「Aタイプ風AT機」だが、いわゆる2万枚規制には引っかかっておらず、新基準の「沖ドキ！

トロピカル」を含め、大切に使用していきたい機械だ。

三木氏は、「勝負を求める層とジャグラーなどのAタイプ好きの双方から支持されている印象です。いい店だと、中高年層と若者層が混在して稼働を押し上げています。逆に若者層ばかりのパチスロ専門店や、ジャグラー稼働が低い店では苦戦する傾向にあります」と話す。

支持層がジャグラーと被るため、「沖ドキ！」の育成もかなり困難。ジャグラー同様、気長に取り組んでいくしかない。

その運用だが、『沖ドキ！』は設定5、6を入れても、体感できるほど差がないので無意味。最高でも『沖ドキ！』が4、『トロピカル』が3ですね」と渡辺氏。

『沖ドキ！』は、初当たり時のBIGとREGの割合が1対1。初当たりが面白い機械です。一方、『トロピカル』は初当たりの80%がREGなので、連チャンしないと楽しめない。両機は、偶数設定だと天国に移行しやすく、奇数設定だと連チャン率が高くなります。『トロピカル』は連チャンを体感してもらうために、3を使うのです」

版權物ノーマル機とAタイプバラの可能性

そして、今後に向けて考えたいの

が「HANABI」などのユニバ系Aタイプと、「エヴァンゲリオン魂を繋ぐもの」に代表される、版權物のノーマル機の活用だ。

糸柳氏は、「ジャグラーと異なり、リーチ目などもありますし、ある程度の演出も入ってきます。なにより、高設定確定演出が、いろんなパターンで盛り込まれている。これが『ミソ』です」とする。

加えて、大型版權を用いたノーマル機の登場もウワサされており、「若年層が遊技してくれるAタイプが増えてくれば、設置シェアを上げていくことで、安定した稼働が得られるようになるでしょう。『バジリスク絆』などはともかく、中途半端な旧基準機は外していかざるを得ませんから、そこに設置して、しっかりと設定を入れていくというのが、今後重要になってきます」と糸柳氏。

だが、ホールの実情として、ジャグラー以外のノーマル機は、小ロット導入が一般的。そこで、三木氏が提案するのが、「Aタイプバラエティー」だ。

「Aタイプは、普通のスロットバラエティーに設置しても埋没してしま

います。ですが、Aタイプだけを抽出して固めて置いておくと、意外に動いてくれるのです」

「特に夜稼働ですね。帰りぎわのお客さまが、『ちょっと触ってみようか』といった感じで遊技してくれます。なので、設置場所は出口付近や、駐車場への導線のそばが有効。どれか1機種だけに高設定を入れておけば、お客さまに『探す楽しみ』も提供できます」と三木氏。

もちろん、そこで高稼働する機械があれば、増台して『独立』させてもいい。Aタイプには、まだまだ可能性があるので。



ユニバ系Aタイプや版權物のノーマル機も今後のカギとなる